

夫の悪性リンパ腫に対する治療法は「EPOCH+R 療法」という名称です。5種類の薬剤を5日間点滴で受け、3日間休んで9日目に1種類点滴を受けます。そのほかに白血球減少に対する補助治療薬、輸血など、副作用の様子を見ながら、万全を図ってくれます。それにしても大量の薬品を数日にも及んで投与されるということは、薬のプラス面だけではなく、マイナス面にも向き合わなければならないということでしょう。

夫は抗がん剤治療の9日目に投与される薬品リツキサンを受けた頃から、血液細胞の減少が始まり、免疫力を示す白血球の数値がどんどん下がりました。副作用として発熱がありますが、それは数日とのこと。ところが熱は6日間も続き、平熱が低いいためか、耐えがたいほどの苦しみだったようです。あまりの苦しみに、なすすべもなく、私は見守るだけでした。

解熱剤、白血球を増大するための薬品、また血小板の輸血など、次々に点滴が休むことなく投与されました。検査の結果、感染症を併発したことが分かりました。即座に感染症の細菌を殺すための投薬がはじまり、やっと熱が引いていきました。信じられないほどの薬品の量でした。また、看護師が絶えず様子を確認しながら、処置を、しかも優しく親切にてきぱきとしてくれました。喜びと感謝で一杯です。

副作用については前もって説明があり、理解していると思っただけでしたが、実際に体験すると、信じられないほどの苦しみに感じてしまうものなのでしょう。日常的な行動でさえ、うつろになり、思考力も働かせようという気にならず、声もかすれて弱弱しい、と見受けられました。夫自身は精一杯頑張っているのですが、体力を奪われたことは重かったと感じました。

毎日、夫宛の手紙や文書類を届け、私が知る限りのこちらの情報を伝えますと、とても喜び、安堵しました。熱が引いたら熱いお絞りで清拭、洗面、歯磨き、うがい、トイレなど、行きたびに介助しました。また、脱毛が始まりましたので、櫛で整え、枕元をコロコロというゴミ取りできれいにしました。落ち着いたところにシャワーの介助、また足、脚、腿、腰とマッサージをしました。これでとてもリラックスできたようで、うとうとと眠くなったと喜んでくれました。書き溜めてあるホームページの原稿もなんとか投稿することが出来ました。



腹部の腫瘍で腸閉塞状態になり、絶食が続いていましたが、25日のCT検査で腫瘍がかなり小さくなり、明日から流動食を食べるようにと指示がありました。その日の夕方、学校帰りに孫が見舞いに来てくれました。

流動食は重湯から始まりましたが、このまま体力を維持すれば、2回目の治療に入り、その後には一時退院し、自宅で過ごすという予定であると担当医が話してくれたと喜んでいました。この日から私は初めて気持ちが軽くなりました。「完治を目指して厳しい治療に入ります」と言われた主治医に信頼して進みましょう。教会、友人、知人の皆様がいつも心にかけてお祈りしてくださいませ。家族も支えてくれます。夫はこんなにも幸せな病人なのです。

